

僕が一番似ているらしい

一月十九日 日曜日 僕が一番似ているらしい

九時頃、最初の目覚め、  
しかし、依然起きる気配なし。

十一時過ぎ、おばあちゃんが、餅を焼いてくれた。  
それを寝ながら食べる気持ち、  
何とも言えない、いい気持ち。

天井に餅が見える。  
両手で餅を引きちぎり、二つにして、  
一つ一つ口に入れる。  
それは両手が離れるにつれ、のび、  
一方が、ばくと、オレ様の口の中へ。  
幾つ食べたか知らない、おそらく七つだろう。

しかし、お茶は天井を見ながらでは、  
飲むことは出来ないので、それで、顔を立てる。

まことに うまい餅とお茶である。  
これで、腹もへるまいと、また、グースカ眠る。

起きたのは一時半ごろであっただろう。  
身長測ると、一メートル・六十五・五ぐらい。  
「なるほど、寝ていると、のびるなあ。」  
と感じた。

しばらく、テレビの前のコタツに座る。  
すぐ、昼めしとして、焼きそば。